

【レポート】

2024年度から新たに始まる「女子野球で繋がるプロジェクト」から地域課題が何かを考え、その解決に向けて取り組んだ地域貢献活動について報告します。

町の未来を担う若手組合員としての役割

島根県本部／川本町職員組合 道畑 和也

1. はじめに

川本町は、島根県の中央に位置しており、総面積106.43km²、人口約3,000人の小さな町です。古くは世界遺産石見銀山の玄関口となる宿場町として栄え、多くの交流によって発展してきた歴史があります。しかし、高齢化率は約45%となり、人口減少や担い手不足など全国の多くの自治体が抱える課題に、本町も直面しているところです。

2. 地域の現状と課題

町内唯一の高等学校である県立島根中央高校では、地元生徒や島根県内の生徒だけではなく、県外からの生徒を受け入れる「しまね留学」の取り組みを積極的に行っています。今では全校生徒250人のうち、約3分の1にあたる86人が県外からの留学生となります。しかし、県内には大学等の進学先が限られているということもあり、高校卒業後に県外へと出ていく生徒が多くいる状況があります。川本町の年代別の人口割合をみると、高校卒業後から20歳代前半までの若者世代の人口割合、その中でも特に女性の割合が極端に少ないことがわかります。このことから、都市部から川本町へ新たな人流を促し、特に若い世代を呼び込むような新たな取り組みが必要であると考えました。

島根中央高校の特徴といえば、特色のある部活動です。日本代表が6人所属するカヌー部や、音楽のまちと呼ばれるほど全国大会に数多く出場している吹奏楽部、地域住民と一体となって悲願の甲子園出場をめざす男子硬式野球部などがありますが、最も特徴的なものと言えば、島根県内で唯一の女子硬式野球部です。2019年度に創部して以降、めきめきと力をつけて今では全国ベスト16の常連になるほど成長を遂げています。町内の盛り上がりはもちろんのこと、全国的にも女子野球人気は広がっており、日本の野球人口は減っていますが、女子野球人口は急増しているとも言われています。しかしながら、高校卒業後の受け皿はまだ充実しておらず、野球を続けたくても続けることができない生徒も多くいます。

このことから前述に挙げた課題を解決していくために、本町独自のコンテンツとも言える「女子野球」を活用し、新たな人流を創出する取り組みを行うこととなりました。

3. 女子野球で繋がるプロジェクト

この取り組みは、女子野球タウンへの認定申請を契機とし、社会人の女子野球チームを創設します。募集する監督・選手・スタッフは、地域おこし協力隊制度を活用して行い、隊員期間の3年間を活用した選手自身のキャリア形成に繋がる取り組みも行っていきます。

- ① 女子硬式野球クラブの創設
- ② 交流人口の創出

- ③ 情報発信の強化
- ④ 人材の育成・誘致

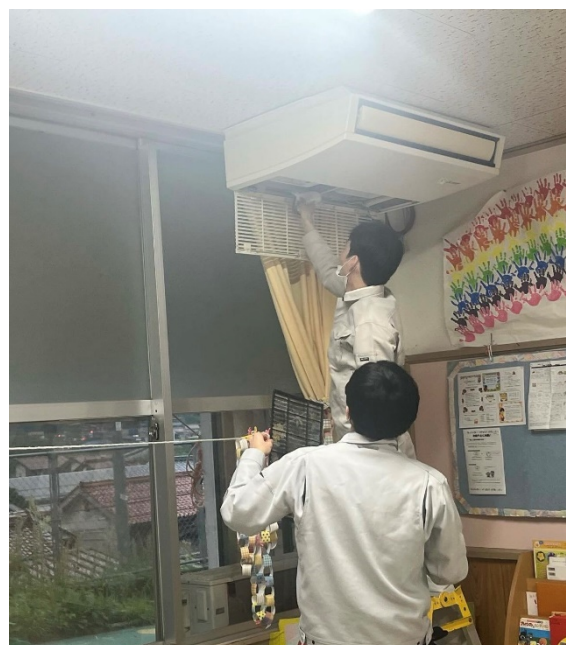
4. 若手組合員にできること

このように町全体で新たなプロジェクトが始動するにあたり、青年部世代の組合活動にどう落とし込んでいくかを考えました。

(1) 保育所の「便利屋」

プロジェクトを始動するまでに行った町内事業所への聞き取りでは、多くの事業所が抱える課題として共通していたのが、「人手不足」です。小さな商店では、店先の雪かきや店の周りの草刈り等でも手が回らない状況であると聞きました。

そのような状況を踏まえ、川本町職員組合青年部では町内3つの保育所へ出向き、清掃活動や草刈り等を行う「便利屋」と銘打って地域貢献活動を行いました。



畑に有害鳥獣対策のネット設置、エアコンのフィルター清掃、草刈り、物置小屋の清掃等を実施しました。部員が自ら率先し行動する姿が見られ、何より人の役に立つということを肌で感じることができた内容であったため、やりがいを感じた部員も多くいました。今後他の福祉施設も含め、このような活動を続けていきたいと考えています。

(2) 旧石見川本駅イルミネーション

町民が感じる課題のもうひとつが、新型コロナウイルスの影響により各種イベントの中止が相次いだことや飲食店が減少したことに関連して、「地域のにぎわいが薄れてきた」という点です。これまで旧JR石見川本駅舎を活用し「イルミネーションかわもと」を毎年冬に実施してきました。コロナ禍においても電飾の飾りつけや点灯は継続していましたが、点灯式イベントは中止や縮小せざるを得ない状況でした。昨年ようやくコロナ禍前の規模でイベントを復活させることができ、約200人が来場し盛大にイルミネーションの点灯を行うことができました。

点灯式イベントは、地域の組織（商店会、商工会青年部・女性部、島根中央高校、観光協会、職員組合女性部）の代表者により実行委員会を結成し、高校生によるクイズ、サンタさんのお菓子配布、島根

中央高校吹奏楽部の演奏、廃線レールを活用したレールバイクの運行等を行いました。

5. まとめ

労働組合は、組合員の処遇改善を実現していくことが重要な目的です。今回紹介した地域貢献活動は、処遇改善には直接関係しないものではありませんが、公務職場を担う者として地域の課題を的確に把握し、それをどう解決するか考えることは、日ごろの業務にも生きるとても大切なことだと思います。

今後も地域を取り巻く様々な課題と向き合いながら、解決に向けて組合活動に取り組んでいきます。